

委員事前提出資料

酒田市法人保育園協議会
近藤 浩司

1. 「酒田っ子すくすくプラン」39pのNo. 15にある、「子育て支援に関する専用ホームページ（TOMONIなど）の内容の充実を図ります」について。

そもそもこの当該サイトは現在、NPO法人が運営するサイトになっています。とすると、“内容を充実する”主体は、子育て支援課ではないのではないのでしょうか？

逆に、公的な情報提供のために民間のサイトを活用するにあたり、市として何らかの運営のための費用を助成するなどの意向はないのでしょうか？

TOMONIサイトのこれまでの経過経緯も含め、整理して説明いただければと思います。

2. 酒田における幼保小の接続について（関係する項目：44pのNo. 49など）

これまでの酒田市内小学校の統廃合により、それまではコミュニティ毎に細やかに行われていた接続事業が、発展するどころか事業によっては後退の一途をたどっています。特に、子育て支援課が進めている「幼保小指導者相互職場体験研修」では、統合学区の小学校の考えにより、一年に一園との体験研修しか行わない旨、園に連絡があり、数年に一度しか当該研修が実施できない状況にある園もあります。

そのような、保育新制度での“接続推進”に逆行するような酒田市内のあり方には、大きな疑問を感じざるを得ません。この状況は、保育所にとっての加算要件である「小学校接続加算」の要件にも連動して行くことですので、年度内の早急な改善を要することであると捉えています。

学校関係並びに子育て支援行政、それぞれの考えをお聞きしたいと思います。

3. 地方版、子ども・子育て会議の位置づけについて（事務局への質問）

新制度において、地方自治体の役割は非常に大きくなっています。

制度の行方は、国でも県でもなく、市町村のあり方に委ねられていると言っても良いでしょう。ステークホルダーで意義のある条例を構築し、“子育てするなら山形県”という理念の実現を図っていくことが何よりも大切な時です。

さて、そんな時にも関わらず、「平成26年度第5回酒田市子ども・子育て会議」の市サイトスペースに、当日資料並びに議事録について、開催後半年経過後になっても公表されていない状況が続いています。

この件については委員である近藤自身も“早急な公表”をと、再三求めてきましたが担当の元木氏からは「現在準備中です」の回答しかなく、現在（8月7日）にまで至っていません。

市民にパブリックコメントを募る傍ら、逆に会議の当事者からは最低限の情報提供もされないという状況は、いかがなものでしょうか？会議の形骸化にも繋がるのではないのでしょうか？事務局としての考えをお聞かせください。

以上